令和8年度　全国学力・学習状況調査の結果と考察

今年度、文部科学省は「全国学力・学習状況調査」を以下のとおり実施しました。

【調 査 日】 令和 8 年4月 23 日（木）

【調査内容】≪教科に関する調査≫　国語、数学、英語

≪ 学習状況調査　≫　生徒質問紙・学校質問紙

教科に関する内容については今年度の結果を分析、学習状況調査については昨年度や今年度の市内、奈良県、全国の中学校の数値とも比較しながら本校の今年度の傾向を考察しています。

【教科に関する調査結果と概要】

令和 8 年度の全国学力・学習状況調査の国語と数学の教科に関する調査の本校の平均正答率、英語の IRT スコア（500を基準にした得点）を以下に示します。今回の教科に関する調査結果について、文部科学省・国立教育政策研究所によると、以下のように概要が述べられています。

【国語】「文章を読んで理解したことに「基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。」

【数学】「2 直線が平行になる条件の理解に課題が見られた。」

【英語】「社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているがその理由を書くことに課題が見られた。」

「日常的な話題について、自分がしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題が見られた。」

本校でもそれぞれの課題を検証していきます。（朱書：本校の平均正答率が全国・県共に下回った値）

【国語】

正答率は全国とほぼ同じ位の値ですが、県・全国の割合と比較して全体的に低めで、思考力・判断力・表現力等の「読むこと」においては4ポイント以上低い結果でした。無解答率については、15 問中 9 問で 0%で、普段から途中で諦めたり、はじめから取り組まなかったりするのではなく、粘り強く考え、取り組もうとする姿勢が表れているものと考えられます。しかし、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかをみる問題は、全体の中で最も正答率が低く、今後、必要な情報を要約したり内容を正確に捉えて解釈したりする力を習得する指導の工夫が期待されます。

【数学】

今年度も平均正答率は、全体やそれぞれの領域、評価の観点において、いずれも県・全国の値と比較してほぼ高い値となっています。ただし、今年は記述や文章題など問題文を読みとって立式したり、表現したりする力が求められる思考・判断・表現力等の内容について県や国と比較するとやや低い結果でした。無解答率も知識・技能を問う問題よりも高く、特に、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題については、正答率が低く、無解答率も高い結果でした。数学的な用語や表現について知識を習得し、その知識を活用して粘り強く問題に取り組むことを授業の中でさらに工夫して取り組む必要があります。生活に結びついた数学的な考え方や想像力を高め、そうした経験値を増やしながら主体的に調べたり考えたりする課題を取り入れていくことを引き続き行い、さらに力をつけていくことが期待されます。

【英語】

英語３技能の平均 IRT スコアは514で、奈良県496、全国499を上回りました。IRT バンド4・5に属する生徒は34.2%で、奈良県及び全国の28.6%も上回っています。「英語が得意」44.8%、「英語が好き」50.6%、「授業内容がよく分かる」68.4%、「将来役に立つと思う」88.8」%の結果も、奈良県及び全国の結果を上回っています。将来の必要性を感じながら意欲的に学んでいる生徒の多いことが傾向として表れています。今後は、英語においても根拠を明確にした書くことや話すことの力をさらにつけていくことが望まれます。

【基本的な生活習慣について】

「毎日、同じ時刻に起きている・寝ている」や、「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は、市・県・全国と比較してやや高い値で、昨年度に比べても２ポイント以上高い結果になっており、本校では概ね基本的な生活習慣が身についていると思われます。ただし、「毎日同じぐらいの時刻に寝ている」生徒の割合は、県・市と共に 80%を切っており起床・朝食の割合と比較して17～18ポイント程度の差があり、就寝の規則正しい習慣に課題があると考えられます。睡眠不足は、成長期である生徒の体の成長や熱中症などの体調不良を引き起こす要因ともなるため、命を守る観点からも生活リズムを整える必要性が高いといえます。

【自己肯定感・自己有用感について】

「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は 92%を超え、昨年度より 4.3 ポイント、一昨年度より 11 ポイント高い結果でした。市・県・全国と比較しても 10 ポイント程度高くなっており、自己肯定感の高まりがみられます。「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」についても高い割合で、昨年度より5.6ポイント高い結果となりました。「人の役に立つ人間になりたい」については、市・県・全国とほぼ同じような割合でしたが、日々の生活の中で、お年寄りを助けたり、声をかけたりする場面も今年は特に多く、実践できている生徒も散見しました。今後もさらに思いを実践できる生徒の育成に努めたいと考えています。

【人権意識等について】

「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えている生徒の割合は 98%で、昨年度より1.6ポイント高くなり、年々高くなっています。また、「人が困っているとき進んで助けている」生徒の割合は昨年度より3.1ポイント高くなりました。今年、通学途中で、困っている人に声をかけた事例が複数あったことは、そうした意識の表れの一端と思われます。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた生徒の割合は6.8ポイント高くなっていますが、市・県・全国と比べると低い値であることから、安心して SOS を発信でき、それを受けとめられる環境整備がさらに必要であると考えます。働き方改革の先に生徒と向き合う時間の創出に努めます。

【学校生活等について】

「学校に行くことが楽しい」と回答している生徒の割合は、昨年度に比べて4.2ポイント増えていますが市・全国と比較して低い値になっています。しかし、「友人関係に満足している」の回答は、昨年度より3.3ポイント増え、「普段の生活で幸せな気持ちになることがある」と回答した生徒の割合は90%を超えており、友人関係の満足度と似た値を示しています。市・県・全国と比較しても高い値であり、日々の生活を充実して過ごしている生徒が多いと考えます。1日の多くの時間を過ごす学校生活が充実したものになるよう、日々の生徒の様子を丁寧に見守り、取り組んでいきます。

【主体的・対話的で深い学びの視点から】

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の値は、昨年度より2．1ポイント増え、市・県・全国との比較でもやや高く、主体的に学習しようとする姿勢の定着がみられます。しかし、「学習した内容について、次の学習につなげることができている」の値は昨年度より 2.5 ポイント減り、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」の値も昨年度より7．9ポイント減っています。学習した内容について見直したり、次の学習に生かしたり、さらに実生活に生かしたりすることは、これからの社会で求められる力です。学びの力を高めるために、日々の授業を見直し、主体的な学びと共に学びをさらに深められる指導の工夫が期待されます。

【タブレットの活用について】

本校は特に ICT の活用に課題があり、その活用推進に努めています。タブレットの使用については昨年度に比べて3．5ポイント高い結果でしたが、市・県・全国と比べるとまだ低い値です。情報収集についても低い結果となっていますが、「発表スライドを作成することができる」ことについては、昨年度より9．5ポイント高くなりました。発表スライドを作成するためには情報収集や情報の整理、文章作成などの能力をバランスよく育成する必要があります。今後も能力育成と共に適時的確な ICT の活用ができる力を育成するために情報モラル教育の徹底共に活用推進に努めます。